

# 平成25年12月 保守作業(12/1)



前回、初めて青空の下での作業が出来ましたが、今回はまたも雨。車体の清掃は諦めて、周辺の草むしりを行いました。

コッペル32号機  
(直方市石炭記念館)



「油壺」が真鍮製と分かり、ならばと磨き出しを行っていきました。



その結果がこちら。真鍮独特の輝きを取り戻しました。漆黒の車体とのコントラストが素晴らしい・・・

D51形225号機  
(直方いこいの村)



直方いこいの村に到着。この頃には、雨もかなり「本降り」となっていますが、構わず強行！



降りしきる雨の中、出来る部分を少しでもキレイに、と頑張る参加メンバー。

D51形225号機  
(直方いこいの村)



こちらは周辺の草や枯れ枝などを除去。



午後からは「屋根の下」で雨を気にする事なく作業。これから寒い季節になると、金属表面に「結露」が発生します。油分が切れていると錆が発生しますので、念入りに油を塗布していきます。



脚立を用いての作業。不安定な状態での作業となるため、機関車本体に脚立を縛り付けたり安全帯を使用したりと、安全には細心の注意を払って作業にあたります。

9600がた9647号機  
(汽車倶楽部)



作業小屋から何やら物音がしたので行ってみると…  
何やら製作中のようです。



訪ねたところ、汽笛の部品だそうです。  
下写真のように組み合わせて使うとの事です。まだまだ仕上がりがではなく、ここから更に削り込みが必要とのこと。

番外編  
(C61形18号機)



C61 18号機の頭部は現在、このような状態です。ただいま煙室扉の補修中・・・